

# 町長と語る会・(仮称) 渡邊辰五郎記念館説明会

## 概 要

開催日時 平成30年6月2日（土）13時30分から15時42分  
平成30年6月3日（日）13時30分から15時26分

場 所 長南町農村環境改善センター

出席者 (町民等) 1日目：19名  
2日目：32名 合計51名  
(町執行部) 平野町長、小高教育長  
課長級職員（15名）、生涯学習課補佐（1名）  
事務局 企画政策課（3名）

### 内 容

#### ○第1部 (仮称) 渡邊辰五郎記念館説明会

##### 《説明概要》 生涯学習課長

- ・町の魅力を高め、新しい人の流れを創り出し、町の活性化に繋げるためには、拠点整備が必要であると考え、町の中心部である長南宿を拠点として、(仮称) 渡邊辰五郎記念館を中心とした、町活性化事業の基本計画を東京家政大学と連携し策定しました。
- ・策定にあたり幅広い分野から参画した「検討委員会」を組織し、協議を重ねました。また、「アンケート調査」や、町民有志の方々、検討委員による「ワークショップ」（体験型勉強会）の開催など、町民の皆さんとの意見把握を行いました。
- ・町と連携包括協定を結んでいる東京家政大学との協働プログラムとして、地域住民が学生や教職員とともに現地調査、イメージマップの作成などを行い、町の魅力や課題をまとめました。
- ・建設地は長南宿のほぼ中央である「渡邊辰五郎出生地跡」を予定しています。
- ・基本理念は「渡邊辰五郎の「創造性」を規範として、家政大学と連携した地域活性化の拠点とする。」ことで、基本コンセプトのポイントは、「①社会教育施設であることを打ち出し、地域に開かれたミュージアムとする。」、「②辰五郎が家政大学を創設した縁を生かし、町と地域の間を取り持って、まちづくりを担う。」、「③宿場町である長南宿を、ひとつのミュージアムとし、記念館はその核として役割を担う。」などです。
- ・この施設はミュージアム、まちづくりセンター、交流と憩いの場という三つの柱で成っていますが、それぞれが独立しているのではなく、三つの役割がお互いに連携し、互いの役割を引き立たせることで成り立ちます。

- ・建物内部の構成は「展示室」、「まちづくり活動スペース」などとし、様々な用途で使用できる多機能性を想定しています。
- ・主な活動、利用のイメージは、「①町の自然環境や歴史、文化を体験する学ぶ日帰りエコツアー」、「②家政大学の専門性を活かした各種講座（家政大学と連携し、講師陣による有料の「出前公開講座」）」で、特に講座では保育や介護などの専門職の資格を持ちながら、現在は職場を離れている方を対象とした再チャレンジ支援講座を目玉とし、周辺市町村を含む就労支援や人手不足という問題解決の取り組みの一つに位置付けます。
- ・地元の特産品や加工品の購入、軽食をとることができるマルシェ（市場）を開催します。町民の皆さんに出店していただき、作り手と買い手のコミュニケーションが図れるマルシェとして定着させます。
- ・管理・運営の中核を担う町、東京家政大学の関係者、地域住民、商工会、金融機関などにより構成された運営組織を立ち上げ、法人化することを想定しています。事業方式は、指定管理者制度により運営組織に管理・運営を担う予定です。
- ・運営に必要な財源は、企画展の入場料など事業収入を財源とすることを計画しています。しかし、当初から独自収入で賄うことは困難であり、町からの補助も必要になると考えています。その後事業の拡大を図り、5年を目途に自立化することを前提としています。
- ・本年度は「基本計画」の内容を踏まえ、施設の基本設計に着手するとともに、運営組織立ち上げに向けた詳細検討を行います。
- ・本町、東京家政大学と連携包括協定を結んでおり、家政大学の専門性、町の自然環境、圏央道の整備効果などを活用しながら、経済・文化・観光レクレーションなど、多方面に及ぶ多様な交流機会を創出し、町の活性化を図る拠点として記念館を位置付け、地方創生を実現していくことを目指しています。
- ・記念館を核とした長南宿周辺をフィールドとした、様々な事業を展開することにより、町民と東京家政大学、町民同士、町民と観光客などの交流を創出します。
- ・Uターン・Iターン者を増やし、税収の増加へも繋げることを計画しています。
- ・事業の実施にあたり、町民サポーターが自分たちの町の活動として関わり進めていくことを想定します。
- ・講座やツアーや、カフェのメニューなどは、家政大学の専門性を活用することで、低コストで質の高い内容を企画することが可能となり、リピーターと新たな来訪者を増やす好循環を生み出すことに繋がり、記念館の収益を向上させることが可能になると考えます。
- ・ただ単に、渡邊辰五郎 氏の記念館という博物館的な建物を建てるのではなく、東京家政大学との連携により、新しい人の流れを創り出し、町の活性化に繋げるために、町民の皆さんとの活動拠点を創る事業です。

## 《質疑・意見》

### 【1日目】

(発言者1)

記念館を建設した場合、維持管理経費が重要になる。入場料を検討していると説明があったが、東京家政大学の博物館は入場無料で、記念館では入場料をとるのですか？

(生涯学習課長)

常設展示は無料で、企画展を開催した場合に有料を想定しています。

(発言者1)

人件費を含めて年間300万円以上はかかると思います。将来的に自立した施設にするのであれば、具体的な数字を示していただきたいです。建設して町の負担だけ残るのではないかと住民は危惧していると思います。補助金で公共施設を建設して、その維持管理費で財政を圧迫している自治体もあるので、まずはどのような収入で維持していくのか、具体的な数字で示してほしいです。

(生涯学習課長)

今のところ、職員数などを具体的にお示しする計画はありませんが、収入については、メインは家政大学と連携した再チャレンジ講座の受講料を主に考えています。入場料については、常設のギャラリーの観覧料を考えており、総体的な收支計画は、今年度に基本設計を策定する中で、合せて作成していきたいと思います。

(発言者1)

来年の町議会議員選挙で、住民投票で賛否を問うことを検討してほしいです。

(町長)

辰五郎記念館は公の施設となり維持管理は町が行うことになります。公共施設は将来の財政負担を伴うので、辰五郎記念館の事業計画策定にあたっては、維持管理経費に充てられる、経営上の収益が出るような事業展開を、検討委員会にお願いしています。入場料でどこまで維持管理経費をカバーできるかわからないが、レストランやカフェなど飲食に入ってもらえば、収益は見込めると考えています。更に、これから運営主体が決まり、企画展など特別な催しが開催できれば、そこからの収入も期待できるなど、色々な事を想定して収益を上げる事業展開を図るべきと考えています。

公の施設の建設について住民投票で問うケースは殆どないと思うので、その方向で現時点では進めていきたいと思います。

(発言者1)

東京家政大学博物館の常設展示の年間入場者数はどの程度ですか？

(生涯学習課長)

家政大学の入場者数は把握していません。

(発言者1)

常設展示で料金をとるのであれば、具体的な事を検討した上で、維持管理の方法等を示してほしいです。回答は町のホームページに掲載してください。

#### 【上記の質問に対する回答】

東京家政大学博物館 平成29年度入館者数

常設展 3,867人

企画展 5,898人

計 9,765人

(生涯学習課 課長補佐)

常設展示についてはビジターセンター的なイメージなので基本的に無料と考えています。企画展については、例えばまちづくりに志ある人達による町の魅力を発信する展示会のようなイメージを考えていますが、企画展以外にもこうしたまちづくり活動から前述のエコツアーや講座につながることが望ましく、こうした有料コンテンツの数を増やしてゆき自主財源に充てるように考えています。

(発言者2)

私はこれまで渡邊辰五郎について知りませんでした。他の世代に聞いても知らず、町民に浸透していないと感じています。運営についても、一度来て終わりでは困るので、いかに管理運営するかは大事であり課題だと思います。

基本計画を策定済みとの事だが、本日の資料が基本計画の成果品ですか？

(生涯学習課長)

基本計画は平成29年度に策定し、本日の資料は概要版です。

(発言者2)

基本計画の基本計画図の中には、ミュージアムやまちづくりセンターなど、諸室の面積や建物の構造、規模、想定人数に基づく駐車場の台数などが出てくると思っていたが、示していただけないのですか？

(生涯学習課長)

本日は概要版に基づき説明しましたが、詳細版は町ホームページにアップしています。その中に規模等は記載していますが、敷地は約 2,700 m<sup>2</sup>、建物は概ね 760 m<sup>2</sup>程度を想定しており、配置案を複数のパターンで示しています。建物は検討委員会でも煮詰めましたが、今のところ利便性を考え平屋建てを考えています。駐車場は、土地の形状から敷地内には乗用車 2、3 台程度しか確保できないため、近隣に駐車スペースを考える必要があり、商工会の敷地について担当レベルで協議、検討しています。

(発言者 2)

基本計画に概算工事費は記載されていますか？

(生涯学習課長)

記載していません。今年度に基本設計を組む中で検討する事としています。

(発言者 2)

交付金を活用するにしても、100%ではなく必ず町費が入ると思います。その金額の話がなく町民が承諾したという話はないと思います。

(発言者 3)

なぜこの記念館が必要なのか、何もしなければ衰退の一途だと思うが、資料にあるような地域活性化、ローカルイノベーションを町民として期待するが、維持管理、ペイできるかが問題だと思います。資料にあるような人の流れを感じない時の責任、現在の内容の担保はどのように考えますか？

(町長)

必要性については、中心地が衰退する中で、子どもの頃の長南宿のように人の流れをつくり、町民の皆さんのが集い憩える場所を提供するという考えでした。その中で、地方版総合戦略を策定し、地方創生の交付金による国の支援がはじまり、せっかく拠点施設を作るのであれば、国の支援制度を使わない手はないと考え、採択を受けるには先駆的な事業である必要があるため、交流が活発になってきている東京家政大学の創始者で長南町を代表する教育界の偉人である渡邊辰五郎を関連付けました。

行政は、可能性のあるまちづくりを提案して環境を作り、その環境をどう使うかは、町民の皆さんによるところが大きい。辰五郎記念館を作ったとしても、行政主導ではなく町民主導で色々な企画、事業運営をしていただければと考えています。

町民の皆さんに責任を押し付けるのではなく、将来的に活性化するような環境を作り、行政と町民の協働のまちづくりをしていこうという前提で考えています。

(発言者3)

責任といふいい方はきつかったが、今の時代は作ればよいということではあります。後の効果には価値観の問題もあるが、執行部の一方通行では効果があがらないと思います。

(町長)

箱物は財政負担を伴うので基本的にはやりたくないが、地域の拠点については中心になるものを配置していかなければ、町そのものがおかしくなってしまいます。庁舎や公民館の建て替えの話もあり、積立てが多くあるわけではないので、借金をすることになります。将来負担が多くならないような借り方を検討するが、公共施設の耐震化は必要です。現在、小学校跡地の活用や西部工業団地計画跡地など検討していますが、公共施設の建て替え、新設以外は、全て民間にお願いし、将来の財政計画を考えながら進めてきます。国の事業採択が難しく、ハード部分が交付金の対象になるか難しい所もあります。

(発言者4)

作るのであれば、自然エネルギーを活用する建物にした方が、補助金ももらえるのではないかでしょうか。また、農産物直売所については、これから生産者が減少していくので、どのように農産物を確保していくのか検討して欲しいです。(意見)

(発言者5)

記念館予定地の近接に住んでいますが、渡邊辰五郎についてはっきりは知りませんでした。ただ、このような名前にしないと、地方創生の補助も受けにくいのだと思います。町民が喜んで参加できるようなものにして欲しいです。また、この計画がいつ終わるのか心配しています。クラブの集まりで、皆で集える場所があるといいという話があるので、そのような場になればいいと思います。資料には町民が運営するとなっており、私はそれを考えていました。コーナーを提供していただき、高齢者がいつでも使える場所とし、蔵書を置いて欲しいです。また、家政大学の講師に話をしてもらうような場所にして欲しいです。カフェの飲みものは自分で持ち寄り、自分達で清掃管理する、自分達のコーナーとして使えるような場所が欲しいと思います。

(生涯学習課長)

事業スケジュールは、順調にいけば今年度に基本設計、来年度に実施設計、用地

取得、再来年度に建物、周辺施設を順次整備する計画です。お話をいただいた取り組みについては、資料の運営サポート体制イメージにある（仮）町民サポーターに運営主体になってもらい、その中で色々な発想を出していただくように考えています。

（町長）

施設ができたとして、どのように使っていくのかは協議します。飲食の持ち込みは収益との関係でどうかと思いますが、余裕のあるスペースがとれるかという問題もありますので、とれるようであれば、そういう事も可能ではないかと思います。

## 【2日目】

（発言者6）

この事業について、話の出どころはどこですか。議員さんにも何人か伺ったが「よくわからない。」ということです。そのような事業をなぜ行うのか疑問です。次に、説明の中には事業費が出ていない。事業を行うのに事業費の説明がないのでは説明会にならないでしょう。また、法人化を目指すというが、法人にもいろいろとあり、それらのどの法人を目指しているのかわからない。将来的に独立採算を持っていくというが、その予算的なものが出でこないし、これで説明会を開くというのはおかしいのではないかでしょうか。

（生涯学習課長）

まず、この事業については最初の基本構想、次の基本計画の策定において議会で説明させていただいている。次に、予算的なものですが、事業による収益と町から支出する指定管理料を充当しますが、これは運営に伴う経費に対してであり、建設費は含まれていません。建設費については基本設計を進める中で具体化していく予定です。法人の種類については今後の検討の中で、最適と思われるものを煮詰めていくことになります。

（発言者6）

よくわかりません。こんな全くわからないような状態の中でお金を使うことはよろしくないのではありませんか。また、このような事業は最初の段階で説明会を開いて意見を聞くべきではないでしょうか。タイケン学園の時も誰もよく知らないうちに町長が決めてしまって、結局否決になったようですが、こういう事業は皆さんが納得してから始めるべきではないかと訴えます。

（町長）

タイケン学園は誘致を決定したのではなく、誘致について検討に入りたい、という提案でしたので、否決になったことはそれでいいと思います。行政としては次々

と出てくる課題解決のために何らかの提案をしていかなければいけないので、いろいろと方法を考えて提案しており、提案が認められなければ、それは仕方ないことであり、この事業についても同じ考えです。ただし、情報提供はしっかりとさせていただいている。すでに 2 年前から検討委員会を開いて議論していただいているし、広報ちょうどなんの「ふれあい通信」にも書かせていただいている。ただ、事業費に明確でない部分があるのは、国の地方創生関係の交付金において、国の動きが見えにくくなっていることと、将来的な町の財政負担ができるだけ小さくするために一般財源の投入をできるだけ抑えたい、ということで明確に出せないからであり、この点についてはしっかりと財政的な裏付けを取って計画を立てた中で示しますので、もう少し待っていただきたいと思います。

(発言者 7)

先ほどの方と似たような疑問は私も持っています。渡邊辰五郎については、ほとんどの町民がよく知らないと思うし、今になって唐突に出てきたように感じています。さて、この施設は町民のための施設であるといいますが、町民の意見がどのように表明、吸収、検討されているのか。それと（概要説明にあった）ワークショップに参加したことがあります、その内容がどのように町民に伝えられているのか、また、町ホームページでこの事業について 1 年ぶりに更新されたが、更新された内容を具体的に説明してほしい。また、今年度の予算でこの事業について 850 万円計上していますが、その内訳を具体的に説明してほしい。それと、他の市町村でもこのような事業を周知しているが、それらとの違いを説明して欲しい。以上です。

(町長)

渡邊辰五郎さんについては確かに知らない方がたくさんいますし、私も町長に就任するまではよく知りませんでした。ただ、そのときには東京家政大学との交流は始まっていましたし、最近は多くなってきています。初めは長南の街なかを活性化するための拠点を、という考えでしたが、東京家政大学や緑窓会の方たちが創立者の生誕地を歴史に遺したいという思いもあり、また、長南町は「教育の町」としての再生を図っていますが、家政大学とのつながりは「教育の町の再生」にも非常に大事なものになると 생각ています。そういうこともあります、現在は機会があるごとに町民の方々に辰五郎さんの話をしていますし、小中学校においても教育長が子どもたちに話をするなど、周知に努めています。

(生涯学習課長)

町ホームページの更新については、「基本計画」の本編と概要版の PDF データを掲載しました。今年度予算に計上した 850 万円については、基本設計に係る委託料です。

(生涯学習課 課長補佐)

ワークショップについて、一昨年の9月3日～5日に東京家政大学との協働プログラムという形でワークショップを行いました。東京家政大学から学生・教職員22名、基本構想検討委員14名、予定地近隣の住民15名、千葉興業銀行員2名などの方々の参加がありました。次に、昨年8月19日に施設への導入機能・諸室構成の検討に関わるワークショップを行い、基本計画検討委員9名、町民27名、また総括役として東京家政大学家政学部長の手嶋教授が参加しました。これらのワークショップで出た意見などは基本計画の中にも活かされており、町ホームページの「基本計画本編」で閲覧できます。

(発言者7)

このコンセプトについては反対するものではなく、よいと思います。確認しますが、ホームページは内容を修正したのではなくて、新たに追加したということですか。それはホームページのどの部分にあるのか、また、検討委員会の活動状況はどこを見ればわかるのか。

(生涯学習課長)

ホームページに従来から掲載していたのは「基本構想」で、今回は「基本計画」ができ上りましたので、それを新たに掲載しました。検討委員会については詳しい協議内容は載っていませんが、開催日と案件を一覧表で掲載しています。また、ホームページ内での場所ですが、トップページの「お知らせ」に「(仮称) 渡邊辰五郎基本計画のアップロードについて」という見出しがあり、そこを開くとリンクURLがあるので、それをクリックすると各課の計画が掲載されているページに移動します。最下段の「生涯学習課」の部分を見るとそれぞれのファイル名の見出しがあるので、そこをクリックすると閲覧することができます。

(発言者8)

基本理念に「渡邊辰五郎の創造性」とありますが、辰五郎の何を以って「創造性」としているのか。私は辰五郎の伝記(『渡邊辰五郎翁傳』渡邊校友会 1929年)を読んでいますが、辰五郎の偉業をそんな簡単に「創造性」と言ってほしくないと思っています。というのは「創造性」と言うのならば、その中身をきちんと検討しないといけないと思うからです。施設の内容についてみんなで検討するのもよいことでしょう。しかし、辰五郎の事績について、もっと研究や議論をするような場を町で立ち上げるなどして、町民がその偉大性の中身をわかるようにしていかなければいけないと思うし、町民が辰五郎のことを理解していれば、いずれは町民から内発的に辰五郎の偉業を伝えていこうという声が出てくるのではないでしょうか。まず

はそういう機軸をしっかりとこれからではないのかと思いますが、そういう取り組みはしてきたのでしょうか。

(生涯学習課 課長補佐)

基本理念の「創造性」について説明します。明治時代、欧米諸国に負けない国づくりを目指す政策の中で、裁縫職人だった辰五郎は教員となり、まだ、学校で裁縫を教える方法が確立していない中で、創意工夫を重ねて画期的な学習法を創り上げます。初めは「子どもたちや学校のために」という思いから始まったことですが、やがて新しい時代の中で女性の自立が求められていることに気づき、その中で自分は何をすべきなのか、というように考え方や行動を大きく発展させていきます。そういう時代を切り開く原動力こそ辰五郎の「創造性」と考えており、現代に生きる私たちもその「創造性」を規範として、自分たちの創意工夫で厳しい時代を切り開いてまちづくりをしよう、という意味が込められています。

(教育長)

「あまり町民に知られていない」という部分では、やはり学校教育の中から呼びかけていく必要があると考えており、その一環として辰五郎についての動画や副読本を製作するなど、その対応を進めています。一人の人物に対しての評価には様々な見方がありますが、辰五郎については時代の中での「創造性」、私は「先駆性」という言葉も使いますが、あの時代にこれだけのことができた、その種が今これだけ広がっている、という評価を大事にしたいと考えています。学校では今「郷育学習」というものを進めていますが、子どもたちには辰五郎のそういう生き様、生き方が今の自分たちにつながるものである、あるいは自分たちもそれに続くものである、という認識を高めてほしく、強く推し進めているところです。

(発言者9)

町長は町の活性化のためにいろいろと頑張ってくれています、そのあたりは私も非常に高く買っています。この事業については大きな賭けのようなところがあると思いますが、そのような時に私たち商人はまず採算を考えます。失敗を恐れていては何もできませんが、失敗すれば借金が残ってしまうということが、確かにあります。また、予定地の近くの方々についても約4分の3の方が、この施設のことについてよく知らないと言います。それは説明不足だと思います。施設ができれば交通や駐車場のことなど地元にはいろいろと影響が出てくると思いますが、まずは初めに地元に対して説明があってから進めてゆくべきではなかったか、と思います。

(町長)

初めに地元への説明会がなかったことについては、大変申し訳なかったと思って

います。先ほど申し上げたように国の動きや町の財政計画などが定まらないうちは事業規模特定できず施設の規模も決まらない、ということもあって、それが詰められず開催が難しいかったのが実情です。これについては今年度基本設計をして、事業の規模などをきちと詰めてから、地元への説明をしたいと考えています。

(発言者10)

私は渡邊辰五郎記念館という名称については特に興味を持っていませんが、この施設を情報発信基地として活用してほしいと思っています。質問は、まず説明資料の運営サポートのイメージ図に町商工会が出ていますが、商工会はどのような立ち位置で参加しようとしているのか、これからなのかもしれません、何か聞こえてるのならば答えてください。次に町観光協会は町商工会の中に含まれるのか、ということをお聞きします。

(企画政策課長)

町商工会については予定地に近接して商工会の事務所があるという立地的な面、経済活動といった面からもサポート体制、運営組織の中の一環として入っていくであろうと、主体的な側面から追随するものとして、基本計画のイメージ図に載っています。加えてサポート体制の中には千葉興業銀行も入っており、その専門知識も活かされると思われ、このような総合的なサポート体制が運営や自立化に活かされると聞いています。

(発言者10)

先ほどこの施設は社会教育施設であるという説明があり、それでもよいと思いますが、それが独り歩きしてしまうと商工会が少し下がって様子を見てしまうと思うので、そこは情報発信基地であるとして、上手く捉まえて欲しいと思います。

## ○第2部 町長と語る会

### 【1日目】

(発言者11)

地域おこし協力隊は何をやっているのですか？

また、西部工業団地計画跡地の進み方はどのようにになっているのか？付随して、旧西小をマイナビが活用し、5月に田植え体験を行ったようですが、マイナビは全国でも農業による活性化に取り組んでおりノウハウもあるようなので、西小宿泊施設を拠点として、西部工業団地計画跡地をマイナビに頼んでみたらどうですか。

(企画政策課長)

地域おこし協力隊については、現在募集要項を作成中で、今年度は10月から半

年間活動していただく予算 220 万円を計上しています。要綱が整備できたら 6 月 中には町ホームページで募集を開始し、10 月 1 日には採用したいと考えています。活動内容は、地域資源を活用した長南町の魅力発信に取り組み、最終的には起業家として町に定着する事が総務省の方針となっています。全国の定着率は 6 割程度で、女性の割合の方が多い状況で、町としても人材をよく見極め、他の過疎地域等の事例を参考にしながら採用したいと考えています。

マイナビさんの農業関係については、ウェブサイトで情報発信するマイナビ農業は非常に好調で、今後は西小を拠点に実践段階にしていきたいということを話していました。先月の田植え体験については西部営農組合のご協力をいただき、今回は初の試みのため、マイナビさんの社員やご家族 50 名以上の参加により開催され、実際に泥に入り稻に触れて、西部営農組合の皆さんのご指導を受けながら行われました。これを一つのステップとして、今後も様々な関係者の協力を得ながら、次の発展形を考え、双方の想い描く事業展開に繋げたいと考えています。

(財政課長)

西部工業団地計画跡地については、県道南総一宮線から市原に向かう、南郷トンネルの左側、54ha を平成 28 年 3 月末に千葉県企業庁から無償譲渡されました。この区域内には 8ha の未買収地があり、広大な土地なので企業からは何件か問合を受けました。その中で、有機農法による循環型農業での活用により町に貢献したいという企業があり、昨年 7 月、水沼・山内地区の区長さんを中心とした、西部工業団地計画跡地活用促進協議会を開催し、企業の説明を受けました。その後の進捗はないが、現在も循環型農業の活用ということで進んでおり、今後とも地元のご理解をいただきながら企業誘致を進めていきたいと考えています。

(発言者 1 1)

地域おこし協力隊の 120 万円は安いのではないでしょうか。半年間もあつという間に過ぎてしまうので、延長できるようにするとか、条件を良くすれば人が来るのではないかと思います。

西部工業団地計画跡地の有機農法は諦めて、マイナビに任せてみたらどうですか。

(企画政策課長)

予算については 120 万円ではなく 220 万円です。内容は報償費等で半年分の金額で、町の財政が厳しい中で、特別交付税で措置されるものです。期間は最長 3 年で、まず 10 月から半年、その後は 1 年ごとの更新により、長い目で事業成果をあげていきたいと考えています。

(町長)

西部工業団地計画跡地については、今協議している企業とは話を詰めており、もう少し時間をいただき、早い時期に皆さんに具体的なお話ができるのではと思っています。

(発言者 1 2)

町の予算状況の冊子が配布され、それを見ると町の借金が 60 億円を越えています。今の勢いで少子化が進むと、税収が減り子ども達に負担がかかると思います。なんとか歳出削減して借金を減らせないかと思う。千葉市が脱財政危機宣言を出して給与を削減し、財政危機をひとまず脱しました。東京都の小池知事が身を切る改革を公約にして自身の給与を半減する条例案を提出しているが、減額の条例案を出す考えがあるのか伺います。

(町長)

人口減少が進む中で、次世代への財政負担を危惧しています。人口が少なくなつても町の財政は豊かであるべきと思っているので、小学校跡地や西部工業団地計画跡地などに企業を誘致し、少しでも町民の皆さんの収入増加、雇用確保等に努めています。向こう 10 年の財政計画を策定しており、その中で私が財政健全を進めいかなければならないと認識をすれば、そのような事も考えています。財政健全化を進める上であれば、給与削減の覚悟もしていますが、職員給与削減については、もう少し議論を深めていきたいと思います。

(発言者 1 2)

庁舎及び公民館の建て替えについて、議会だよりでは庁舎建設の財政支援を受けることができるのが平成 32 年度までとされており、それまでには完成させたいとの事だが、庁舎は建て替えの方向で考えているのですか。

(町長)

耐震化の方法は、今の建物を補強するか、建て替えるかのどちらかで、今の建物はかなり古く、補強しながら大規模改修しても相当経費が掛かり、使い勝手が悪くなりますので、建て替えた方が良いと考えています。熊本地震で庁舎が倒壊して防災拠点がなくなってしまったという反省を踏まえ、国では耐震化が未実施の庁舎建て替えであれば財政支援をするとしており、それが平成 32 年度までの時限立法となっています。その制度を上手く活用して、建設しようという考え方の答弁です。

(発言者 1 2)

また町の借金が増えるという事ですか。

(町長)

施設を造るには必ず財源の裏付けが必要です。一般財源があれば問題ないが、それだけの積立てもないので起債（借金）をするしかないが、その借金については財政支援を受けながら償還します。その全額を一般財源から返済するわけではなく、国の支援制度を活用すると地方交付税で還ってくるので、6割か7割位の負担で済むようになっています。制度を上手く使えば、借金も有効に使えると考えています。

(発言者 1 2)

辰五郎記念館は何故空いている小学校を使わないので？旧西小をマイナビに 5 年間貸すが、その後はどうなるかわからない。私としては庁舎が西小でも構わない。箱物行政は維持管理費がかさみ借金が増えるのが一般例。活性化の成功例は、あるものを使っています。人の流れを作りたいのであれば、建設予定地に子育て住宅を作った方がよい。消滅しないようあらゆる手段を考えて、お金を使わず知恵を出し合って、箱物を作らずにやっていくしかないと思います。富津方式をやるつもりはありますか？

(町長)

富津方式はわかりませんが、庁舎、公民館は、地震がきたら倒壊してしまうという耐震診断結果が出ています。耐震化は終わっているべきでしたが先送りされ、私も就任してすぐに取り掛かろうと思いましたが小学校の統合があり、一区切りつけてからという考え方で進めています。公共施設は多くの町民の皆さんを利用する施設で、これを危険な状態のまま放置することは、首長の責任として絶対にあってはなりません。小学校施設については、大人が行政事務に使うためには大規模な改修も必要で、公共施設が分散してしまうことにもなるため、維持管理が必要な学校跡地は民間活用で補い、耐震化が必要な施設は、コンパクトで機能的な施設を作るのが町民の皆さんのためになると考えています。

身を切る改革については、町職員数は少数精銳でやっています。本来は退職者と同数を補充すべきところ、将来に向け人口減少が進み財政が逼迫する中で、今から少しづつ制限しなければならないため、無理を強いています。給与削減をしなくとも、既に身を切って全庁挙げて取り組んでいます。

子育て住宅については、ご提案として受け止めていきたいが、基本的に住宅整備は民間にお願いすべきと考えますので、こういった事例については民間と話し合つていけばと思っています。

(発言者 1 2)

国家公務員の平均給与を 100 とした場合、長南町職員の平均給与が 97.8、財政

規模等が類似の市町村が 95.1 です。富津方式とは、中学生から 70 代まで約 100 名による町民協議会を開催し、町勢の無駄を省いて将来生き残るためにどうしたらよいかディスカッションし、参加者が地域に持ち帰って集会を開く。長南町はトップダウンのようだがボトムアップがよいのでは。町民全員参加にするには有効な方式で、真似している自治体も増えているので、ご検討いただきたいです。

(町長)

庁内組織については、トップダウンの点もありますが、基本的には各課長や職員の意見を踏まえて意思決定しています。まちづくりを検討する組織は、町民の皆さんにお願いしている所もありますが、地域ごとに組織を作っていただき、町に声を掛けていただきたいとも思っています。できるだけ町民の皆さんのが中心になっていただけたらありがたいと思っていますが、町には様々な行政委員会や附属機関があり、幅広く町民の皆さんの意見を聞き、意思決定する仕組みができます。先進地の事例は調査していきたいと思います。

(発言者 1 2)

町の財政状況について、平成 27 年度決算で将来負担比率が 71.7% で、平成 28 年度決算では 47.5% となっているが、ありえるのですか？

(財政課長)

将来負担比率の差については、特別土地保有税による一時的な収入による基金増があったためです。

(発言者 1 3)

コンビニを新たに建てる際は、人の流れや交通量を十分調査し、それが店舗の発展に繋がると聞いたことがあるが、渡邊辰五郎記念館はどうしても現在計画している生誕地に建設しなくてはならないのですか？例えば、国指定重要指定文化財の笠森観音は笠森霊園に近接しており、霊園には 3 万人が訪れると言われているので、例えば笠森ドライブインのあたりに併設できないでしょうか。

また、米満住宅跡地に町が分譲したサニータウン米満は、茂原にも高速インターにも近く、若者に大人気です。第 2 のそういった場所を、長南町の子育て世代の若者に定住してもらうために考えられないでしょうか？これが町の活性化のために必要だと思うが如何ですか？

(町長)

記念館については中心市街地、長南宿を何とかしたいという事から始まっていることから、現在の予定地でないと、本来の計画がうやむやになってしまふ恐れがあ

ります。駐車場が確保できる広い場所がよいのではとの意見もありますが、記念館で人を呼ぼうとは考えていません。町民の皆さんのが憩い集える場所で町なかの活性化を考えているので、他の場所だと初めの考えとズレてしまいます。

サニータウン米満は評判が良く完売しています。造成には町財政負担がありましたが、町有地であったため安価に提供でき、定住促進制度と絡めて完売することができました。第2弾については、用地買収から造成を行うには、相当の財政負担を伴います。その経費を回収するための単価設定をすると、売れるという保証はなく、今回は安価だから売れたという要因があります。そういう所を分析しながら、今後検討したいと思います。

(発言者13)

町中の人達は、辰五郎記念館を作ることに賛成なのでしょうか？

\*会場から「賛成です。」の声あり。

(町長)

先程、住民投票の話が出ました。私は今回の説明会である程度の感触を持った上で、最終決断をさせていただきたいと思っています。基本設計の予算も近々執行しなければならない立場にあります。それが大きく町を揺るがすような財政負担となる恐れがあるならば、住民投票をしなければならないと思いますが、今後十分議論する中で解決できると思います。町中の人人が賛成かは統計を取っておらずわかりませんが、今回の住民説明会の状況で方針を出したいと思います。

(発言者14)

先程話に出た富津方式は大切だと思います。今、過疎地では車移動で、集落の横の繋がりがない。その中で、町の職員の問題ではなく、住んでいる住民が横の繋がりをどのようにしていくかが、過疎の問題を解決すると思います。それができるか、できないかは住民にかかっていると思います。

(町長)

その通りだと思います。行政主導ではなく、住民主導で物事を進めていく中で行政が入っていくのも一つの手だと思うので、皆様に今後もお力添えをいただきたいと思います。

## 【2日目】

(発言者15)

まず、「長南宿の拠点の活性化として」という話が何回も出てきましたが、やは

り地元商店の方たちと今までどのような話をしてきたのか、これからどのように進めてゆくのか、ということをお聞きしたいのと、次に、今後のスケジュールで、「基本設計に着手するとともに、運営組織の立ち上げに向けた詳細検討を行っていく。」とありますが、どんなに素敵な建物ができても、運営の部分がしっかりとていなければ上手くいかないし、運営組織をしっかりと作ることの方が大事であり、先ではないかと思うのですが、そこはどう具体的に進めてゆくのか。最後に地元には房総信用組合という金融機関があるのに、なぜ千葉興業銀行なのでしょうか。以上についてお聞きします。

(生涯学習課長)

1点目につきましては町商工会の会長、また、地元で商店を経営されている方々にも検討委員会に入っていたり、地元としての意見をうかがっています。2点目につきましては、施設の規模等が定まらないうちに、なかなかそういう話ができなかったという経緯がありますので、今年度の基本設計と同時進行で運営組織を決める準備をしていく予定です。

(企画政策課長)

3点目についてですが、地方創生事業として企画政策課が実施した「長南町まち・ひと・しごと創生総合戦略」では千葉銀行がメンバーに入っていました。その頃、(仮称) 渡邊辰五郎記念館事業の始動にあたり、基本構想検討委員会に入っていただけの金融機関はないか、ということで当時の生涯学習課長から相談を受けて「千葉興業銀行さんも地方創生に積極的である。」という話を伺っていましたので、そういう経緯で決定したと思います。

(発言者16)

私はここにおいての皆さんほとんどがこの事業に反対ではないのか、という声を感じますし、本当に町を愛する人たちだと思います。悲しいのは若い人たちの関心がないということです。ただ、ここに反対者がいるということは理解がされていないということです。この事業については教育長の範疇に入るのではないかと思いますが、教育長として何回くらい大学側にアプローチをしましたか。

(教育長)

大学とは、どのような交流をする中で辰五郎が町の活性化や子どもたちの意識化に入るのか、というような取り組みについて、私の方では中心的にしてきました。記念館事業の進め方についてはそれほど多くは参加していませんが、私の方は学校の子どもたちと関わる事業について進めています。

(発言者 16)

それは、大学に行っていないということですか。それでは、大学側の姿勢というものがどのように現在の流れの中にあるのでしょうか。

(企画政策課長)

教育長は昨年、東京家政大学の学生と長南小の児童が協働で体験した「長南町ソーラーアートバルーンプロジェクト 2017」について、中心になって大学側と話を進めてきましたし、一昨年の「動く町政教室」として東京家政大学に伺った際にも同行しています。また、機会があることに町長とともに大学へ伺って、学長や関係者の方々と直接お会いしています。

(発言者 16)

単に建物を建てて町の活性化などとは現実離れです。この少子高齢化の状況を見てください。こんな降ってわいたような話ではなくて現実を見るべきでしょう。この会場の建物だって本当に必要ですか。会議は庁舎でもできます。野見金公園を整備しましたが、カフェは常時営業しているわけではないし、それも町外の人がやっています。整備だってそうでしょう。為政者としてもっと現実をしっかりと見積もってやってほしい、というのが私の意見です。

(町長)

今、ほとんどの人が反対しているのではないか、ということを伺いました。何もやらなければそれで済んでしまうのかもしれません、それでは町は何も変わらないでしよう。人口減少についても、高度経済成長期に増えた人口が元に戻っているというような市町村とは違い、長南町の場合は継続的に減り続けています。そういう中では、やはり何か活路を見出していくかなければいけない、そういう思いでいろいろな手を打っています。その手の一つ一つは私が独断で決めるのではなく、行政として提案をして皆さんのご理解のもとに進めていくものです。野見金公園にしても整備をしたことで各方面に取り上げられるようになり、人が多く訪れるようになっています。東京家政大学についても、辰五郎の生誕地が注目されるようになってから相互に交流が増えてています。町と大学の間で包括連携協定も締結していますし、今後、町と大学の関係をどのような取り組みをするのかを協議するための、運営協議会の立ち上げも予定されています。(仮称) 渡邊辰五郎記念館は間違いなくその拠点となる施設であり、決して無駄なものではないと思っています。また、将来の財政事情を見据えた上で進めているので、そのあたりをご理解いただきたいと思っています。

(教育長)

私は教育長に就任した時、町長は人口減少について大きな課題意識を持っていました。これを受け、学校教育ではこのことにどのようなアプローチができるのか、ということを考えました。それは従前の学校のように学力を付けて送り出すだけではなく、子どもたちが将来自分の生まれ育った長南町を素晴らしいと思う、ふるさとを誇れる子どもたちを学校教育が育てられなければ、いずれ遠くを見てしまい地元に目を向けることはなくなってしまうだろう、という思いがして、子ふるさと意識を持った子どもを育てたいということで現在取り組んでいます。これについては「郷育学習」ということで、地域の皆様にいろいろな形で学校教育の中に入っています。地域を挙げて「ふるさと長南が大好き。」という子どもたちを育てたいという思いでやっています。ですから、東京家政大学との間でその中に大学の持つ専門性をどう受けられるのか、という観点から方法論を検討しています。

(発言者 17)

(仮称) 渡邊辰五郎記念館ですが、現在予定されている場所に建てるには反対です。長南に限らず茂原や東金、大原でも街なかの商店街はどこも閉める店が多くなっており、駐車場が広く取れる郊外型の店舗が増えています。ですから、記念館でレストランなどを事業化したいのであれば、あの場所は不適格だと思います。生誕地であれば記念碑を建てるということでもいいですし、辰五郎の関係資料があれば郷土資料館があるのでそこに入れればよい。先ほどの説明のような施設を創るのであれば、もっと広い場所に建てた方がよいのではないかでしょうか。

(町長)

街なかが衰退するというのは、周辺にバイパスが通ることによって、交通の流れや商店がバイパス沿いに移ってしまうという場合が多いです。茂原や東金というのはまさにそのケースですが、長南はバイパスがないので、現在でもあの街なかの道が幹線です。

(発言者 17)

長南にもバイパスを造ってほしいという声がありますよ。

(町長)

実は平成 5 年くらいに長南にもバイパスを通す計画がありましたが、なくなってしまったそうです。もし、そのときにバイパスが通っていれば、町の状況もずいぶん違っていたのではないかと思っています。しかし、今それを言って仕方がないことなので、今ある幹線道路沿いの中心地をいかにして盛り上げていくか、ということ主眼を置いているわけです。

(発言者 17)

でも、駐車スペースも取れないような場所ではダメでしょう。

(町長)

一般的に知られる偉人記念館や資料館を建てて観光客を呼び込もう、という目的ではありません。地元の皆さんに上手く活用してもらうための施設であり、そこを拠点として人の流れを作りたい、というのが私の考えです。この施設は町がつくる公共施設ですから、基本的にその維持管理は町が行うのですが、町の負担を少しでも減らす目的で指定管理者による運営の代行を考えています。具体的なことはこれから検討しますが、あの場所に施設を造る意義は街なかを賑やかにすることですから、他の場所に造ってしまっては意味が無くなってしまう、ということをご理解いただけますようお願いします。

### ○町長あいさつ（総括）

（仮称）渡邊辰五郎記念館については2日間にわたり皆様からご意見をうかがいましたが、それをしっかりと整理して議論してから然るべき判断をしたいと思っています。長南の街なかは衰退してはいますが、やはりあそこは長南を代表する中心地ですから、他にもいろいろと方法を考えました。その一つは長南城であり、城下町・宿場町の景観を整備して人の流れを創る、というものでしたが、景観の整備というものは時間もお金もかかってしまうので、それはできない。それならあそこに拠点を創って何とかしてゆこう、しかし、何とかするというのは行政主導でするものではありません。行政はあくまでもそういう環境を創って皆さんに提供します、その施設を上手く使って盛り上げてゆく、それが一番大事なことであると思います。それが町民と行政の協働によるまちづくり、ということなので、よろしくご協力をお願いしたいと思っています。

町はこれから少子高齢化、過疎化などでより一層厳しい状況に置かれます。我々は職員一丸となって新しい提案をしていきます。そのときは反対の声もあるかもしれません、それが我々の役目であり、提案に同意が得られればしっかりと取り組んでいきたいと思っています。いろいろな分野で皆様にはまたお力添えを頂くことになると思いますが、これからもよろしくお願いを申し上げて、御礼のご挨拶とさせていただきます。本日はどうもありがとうございました。

### ○閉会